
日本人学習者によるスペイン語の 無強勢語の発音

泉水 浩隆

Abstract

This paper discusses the pronunciation of unstressed words in Spanish by Japanese university students who are majoring in this language. There have been few studies carried out on this theme from an experimental point of view, though some previous articles have indicated the difficulties of these words based on classroom observations. This study aims to analyze characteristics of learner pronunciation of these elements mainly focusing on tonal movements with the aid of a computer software program. The results show that native speakers tend to pronounce concatenations of unstressed words with a relatively stable tone; in contrast, Japanese students show more tonal movements in such cases. Different tendencies are also observed between the pronunciation of students who have experienced long-term stay in a Spanish speaking country and that of those who have not. The former produce more native like tonal movement than the latter.

1. はじめに

日本人スペイン語学習者がスペイン語の発音はやさしいと考えていることは教室などで時々耳にすることでもあり、また実際に学習者がそういう印象を持っているという報告も既になされている(寸田(2013: 148-149), 浦(2010: 26, 33))。しかしながら、筆者は学習者の持つこうした印象に対し、果たして本当にそうなのであろうかという疑問を常に感じており、これまでいくつか日本人スペイン語学習者の音声面に関して実験的に観察する研究を

行ってきた (Sensui (2012), 泉水 (2014), Sensui (2015) など)。本稿もこれに類するもので、泉水 (2014) において今後の課題の1つとして触れた、日本人スペイン語学習者がどのように無強勢語を発音するかについて実験的手法を用いて分析することを試みる。

まず、スペイン語における無強勢語とはどのようなものか、概略的にまとめることにする。Hualde (2012: 161-162) によれば、無強勢語は、前接語となる代名詞以外はすべて後接語である。すべての前置詞 (según を除く)、単独の接続詞、目的格代名詞は前置される場合無強勢、肯定命令形の後に置かれる場合も通常は無強勢である。また、名詞句に含まれる不定冠詞や指示形容詞、数量詞などは強勢を持つのに対し、定冠詞、所有形容詞も通常は無強勢である (例外的な場合については Hualde (2012: 161-162) を参照されたい)。Hualde (2012: 161) は、異なる種類の機能語に強勢語と無強勢語が分布しているのはどちらかと言えばスペイン語に特徴的なことであると述べている。

そのような特徴的事象の1つでありながら、日本におけるスペイン語教育の現場では、これらを意識して説明することが少ないのではないだろうか。例えば、中島・落合・菅原・大森 (2011: 187) は「強勢語と無強勢語の区別に触れている教科書もほとんどなく、多くの日本人学生にとって苦手な l と r の区別と巻き舌に特化した練習問題や、イントネーションの練習問題も非常に少ない」と指摘している。つまり、強勢語と無強勢語の存在がきちんと教室で教えられていないのである。

こうした説明不足だけが原因ではないだろうが、日本人スペイン語学習者の発音において無強勢語に問題があることは、既に Hara (1990) が指摘している。Hara (1990: 377) は日本人学生が mi や nuestro (名詞に前置される場合)、que, se のような無強勢語に強勢を置いてしまう難点があると述べている。

では、実際どのような具体的特徴が日本人スペイン語学習者の無強勢語の

発音に見られるのだろうか。残念なことに、日本人スペイン語学習者を対象にこの点を実験的・数値的に検証した研究はこれまでほとんど見当たらない。そこで本研究では、日本人スペイン語学習者が無強勢語をどのように発音するのか、機材を用いてインフォーマントの発音を実証的な立場から分析したい。

2. 実験

2.1. インフォーマントおよび録音手順

今回の実験においては、スペイン語を専攻言語として学ぶ日本人大学生8名およびスペイン語ネイティブスピーカー2名（女性・パレンシア出身・インフォーマント番号 2016_ESPF01, 男性・サラマンカ出身・インフォーマント番号 2016_ESPM01）がインフォーマントとして参加した。日本人大学生インフォーマントのうち、2名が3年以上の期間スペイン語圏の国に滞在した経験があり、これを「長期滞在経験者」とする。3名は2セメスター程度スペイン語圏に留学経験があり、これを「留学経験者」とする。残りの3名はスペイン語圏での1ヶ月程度の滞在経験のみ、または、ある程度の期間を超える滞在をしたことがない者であり、これを「長期滞在未経験者」とする。スペイン語の学習期間は「長期滞在未経験者」が2年～2年半、「留学経験者」は5年、「長期滞在経験者」はそれ以上にわたる。表1にインフォーマント番号と上記カテゴリーの分類、性別等をまとめる。

録音は2016年12月～2017年1月に実施した。録音は、無響室ではないが、特に大きな雑音等のない静かな部屋で行い、リニアPCMレコーダー（SONY PCM-M10）（サンプリング周波数44.10kHz、量子化ビット数16bit）およびマイクロフォン（SONY C-357）を使用した。各インフォーマントは、泉水（2014）で用いた文リストと同じリストを読み上げた。泉水（2014）における録音時と同様、日本人大学生インフォーマントは、録音する前にリスト全

表1 日本人大学生インフォーマントに関するデータ

インフォーマント番号	①スペイン語学習期間	②滞在経験	③性別
2016_JPNF01	2年半	長期滞在未経験	女
2016_JPNF02	2年半	長期滞在未経験	女
2016_JPNF03	5年	留学経験	女
2016_JPNF04	5年	留学経験	女
2016_JPNF05	15年	長期滞在経験	女
2016_JPNF06	2年	長期滞在未経験	女
2016_JPNM01	8年	長期滞在経験	男
2016_JPNM02	5年	留学経験	男

体を読み、意味の分からない語彙・文がある、あるいは、不明な点や疑問に思う点がある場合、筆者に確認するよう依頼した。

録音は各文1回だったが、途中で言い間違えたり、つまったりした場合は、同じ文を再度続けて読み、正しく読み直した文を分析対象とした。また、日本人学習者、ネイティブスピーカーいづれに対しても、特に強調したり、何らかの感情をこめたりしたような言い方ではなく、ごく普通と自分が考える読み方で読むよう指示した。泉水(2014)の文リストのうち、今回後述する分析で使用した文は以下の6つである。

- (1) 文番号 11 ***Si nos lo*** dices en serio, [es ridículo] .
- (2) 文番号 6 ***Como nos lo*** dice en serio, [es ridículo] .
- (3) 文番号 14 ***Los que lo*** sepan, [que lo digan] .
- (4) 文番号 25 ***Para que lo*** sepan, [te lo digo] .
- (5) 文番号 16 ***A su vecino*** le gusta el libro.
- (6) 文番号 20 ***A su profesor*** le gusta el libro.

無強勢語が連続する場合、日本人スペイン語学習者がそれをどのように発音しているかを観察することが目的であるため、[] 内の部分は今回の分析対象外とした。太字のイタリックになっている部分が無強勢語（あるいは無強勢音節）の連続が見られる箇所である。(1)～(4)は無強勢語が3つ連続し、(1)と(3)は無強勢音節が3つ、(2)と(4)は4つ続く。一方、(5)と(6)は無強勢語が2つ連続し、無強勢音節については(5)で3つ、(6)では4つ続いている。

2.2. 分析手順

2.1. で説明した方法によって録音した .wav ファイルから、Sound it! 7 Basic for Windows (株式会社インターネット) を用いて、分析対象となる部分を切り出し、それぞれの .wav ファイルを作成した。さらにそのファイルを音声分析ソフト Praat (Version 6.0.25) (Boersma & Weenink (2017)) を使用して音節単位にセグメンテーションした。その後、Praat の Pitch listing の機能を用いてセグメンテーションした各音節の高さの平均値を求めた。単位は st100 (100Hz を 0 としたセミトーン) である。その値を Microsoft Excel 2013 でまとめ、グラフ化した。以下、このグラフを基に分析を進める。

3. 結果

3.1. Si nos lo dice en serio,...

文番号 11 の “Si nos lo dice en serio,…” では、図 1 (a) から分かるように、女性ネイティブスピーカー 2016_ESPF01 の発話においては、si の部分がやや高いが、ピッチは無強勢語が3つ連続する si から lo までの間 1 semitone (以下、st とする) 程度の狭い範囲で変動している。その後、強勢音節 di からそれに続く ce にかけて上昇が続く。一方、男性ネイティブスピーカー 2016_ESPM01 の場合、女性に比べて当該区間の変動幅が約 4st と大きくなっ

ているが、例えば、その後の ce から en, en から rio へと動く下降・上昇と比べると比較的穏やかな動き方と言える。

図 1 (b) はネイティブスピーカーの発話と長期滞在経験者の発話を比較したものであるが、si から lo までの無強勢語のピッチ変動の様子はネイティブスピーカーによる発話のそれとよく似ている。相違が見られるのはその後の強勢音節 di からそれに続く ce の部分で、ネイティブスピーカーによるピッチ変動と比較すると、長期滞在経験のある日本人学習者の上昇の度合いが小さいことが分かる。

図 1 (c) はネイティブスピーカーの発話と留学経験者の発話の比較である。図 1 (b) と異なり、2016_JPNF03 および 2016_JPNF04 の発話で si から lo へ向かって 3st ほど下降している様子が見える。一方、2016_ESPM02 と 2016_JPN02 は無強勢語の連続部分だけ見ると似た動きをしているように見えるが、2016_JPN02 の場合、その後強勢音節 di で上昇することなく、そのまま平板な状態のまま最後の rio まで下がっていく点が 2016_ESPM02 とは大きく異なる。

図 1 (d) はネイティブスピーカーの発話と長期滞在未経験者の発話を比較したものである。2016_JPNF01, 2016_JPNF02, 2016_JPNF06 のいずれのインフォーマントにおいても、si から lo にかけて 2.5st から 4st ほど下降する動きを示している点がネイティブスピーカーの 2016_ESPF01 と異なっている。

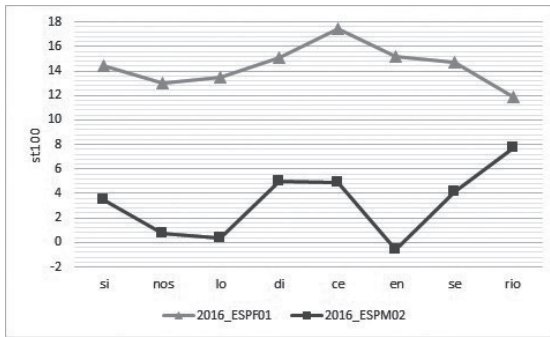


図 1 (a) 文番号 11 (ネイティブスピーカー)

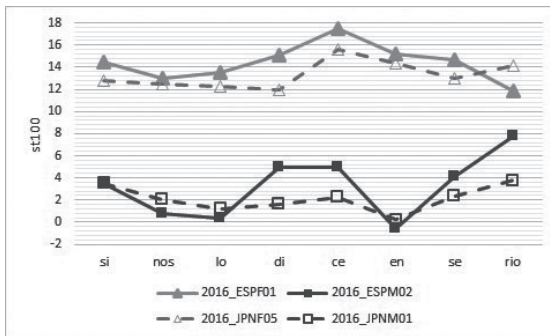


図 1 (b) 文番号 11 (ネイティブスピーカーおよび長期滞在経験者)

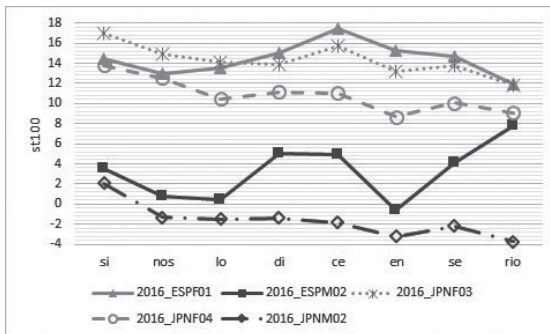


図 1 (c) 文番号 11 (ネイティブスピーカーおよび留学経験者)

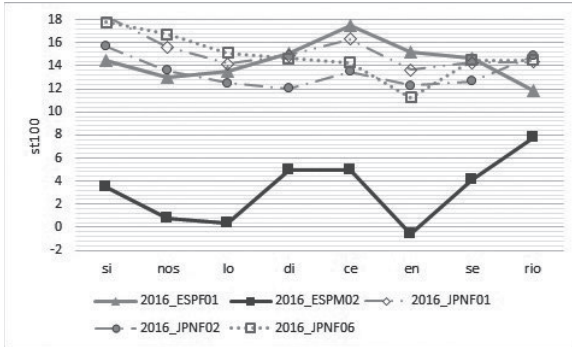


図 1 (d) 文番号 11 (ネイティブスピーカーおよび長期滞在未経験者)

3.2. Como nos lo dice en serio,...

文番号 6 の “Como nos lo dice en serio,…” は、3.1. の最初の語 *si* を *como* と入れ替えた点以外は同じ語彙要素から成り立つ文である。つまり、無強勢音節が 1 つ増えた点のみが異なるのであるが、この変更により、日本人スペイン語学習者の発話に 3.1. では見られなかった特徴が現れる。

図 2 (a) で示されるように、ネイティブスピーカーの発話においては、最初の音節 *co* から *lo* までの動きは、1 ~ 2st の間におさまっており、これは 3.1. と共通する。

ところが、日本人スペイン語学習者の場合、長期滞在経験者、留学経験者、短期滞在経験者、いずれのカテゴリの場合も、*como* から *lo* までの無強勢語が連続する部分の高さの変動幅はおおよそ 4st 程度であり、*co* または *mo* いずれかの音節を頂点として *lo* に向かって下降する動きを見せている。

図 2 (b) はネイティブスピーカーの発話と長期滞在経験者の発話を比較したものであるが、3.1. と異なり、ネイティブスピーカーと比べると、特に *como* の部分が高く、その後の部分へ向かって下がっていく様子が見える。逆に、強勢音節 *di* とそれに続く *ce* へ上がっていく上昇の幅がネイティブスピーカーに比べ、日本人学習者は小さい。これは 3.1. と共通する特徴である。

図 2 (c) のネイティブスピーカーの発話と留学経験者の発話を比較したグラフを見ると、2016_JPNF03、2016_JPNF04 の女性インフォーマント 2 名による como から lo にかけての動きが類似している。すなわち、co から mo に向かって一旦上昇し、mo を頂点として lo へ向けて下がっている。変動幅も 3 ~ 4st と女性ネイティブスピーカー 2016_ESPF01 に比べて大きい。一方、日本人男性インフォーマント 2016_JPNM02 の場合、como の co を頂点としてそこから lo まで 4st 強下降している。2016_ESPM02 では同じ区間で 1st ほどしか動いていないのと対照的である。強勢音節 di とそれに続く ce へ上がっていく上昇の幅が、ネイティブスピーカーと比べた場合、日本人学習者の発話では小さいという特徴は図 2 (b) と同様である。

図 2 (d) では、2016_JPNF06 を除き、como の co を頂点としてそこから lo まで下降するという、図 2 (c) の 2016_JPNM02 と似た形状が示されている。2016_JPNF06 のみは文頭から nos まで上昇し、ここで一旦 lo へ少し下降した後、上昇へ転ずるといふ、他のインフォーマントには見られない動きを見せている。

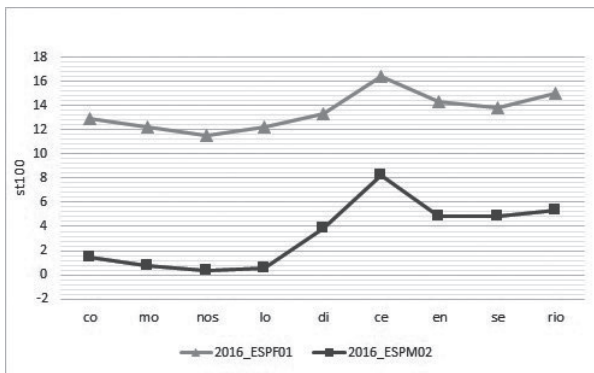


図 2 (a) 文番号 6 (ネイティブスピーカー)

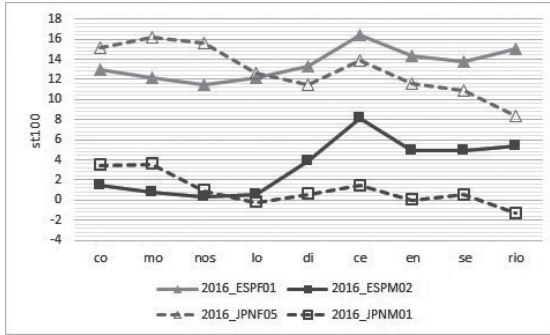


図 2 (b) 文番号 6 (ネイティブスピーカーおよび長期滞在経験者)

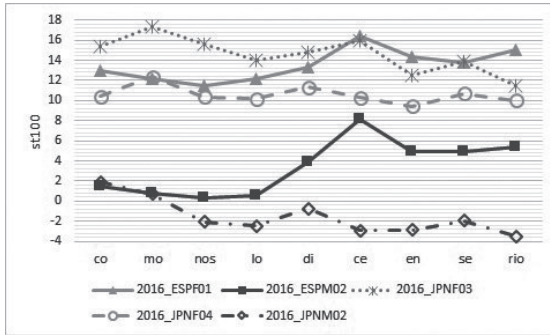


図 2 (c) 文番号 6 (ネイティブスピーカーおよび留学経験者)

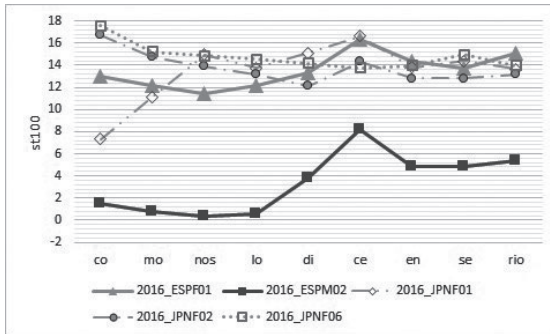


図 2 (d) 文番号 6 (ネイティブスピーカーおよび長期滞在未経験者)

3.3. Los que lo sepan,...

文番号 14 の “Los que lo sepan,…” においても、図 3 (a) で示される通り、無強勢語の連続する区間である los から lo にかけては、ネイティブスピーカーの発話ではピッチの変動幅が狭い。1 ～ 2st の範囲に留まっており、平板に推移している。

図 3 (b) を見ると、長期滞在経験のある日本人学習者とネイティブスピーカーの発話における無強勢語の連続部分の動きが酷似しており、変動幅も 1 ～ 2st と同様であることが分かる。

一方、図 3 (c) の留学経験のある日本人の発話では、いずれのインフォラメントにおいても los から que にかけて下降が見られる。los と que の間、que と lo の間、どちらで下降が始まるかのタイミングの違いはあるが、いずれも 3 ～ 4st 下がっている。

図 3 (d) を見ると、2016_JPNF06 のみ los から lo へ 3st ほど下降している一方、2016_JPNF01, 2016_JPNF02 の発話では、ピッチ変動の形状はネイティブスピーカーのそれと似ており、また、変動幅も 2st と同程度である。

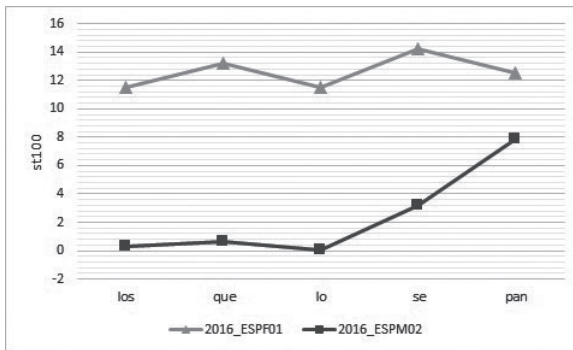


図 3 (a) 文番号 14 (ネイティブスピーカー)

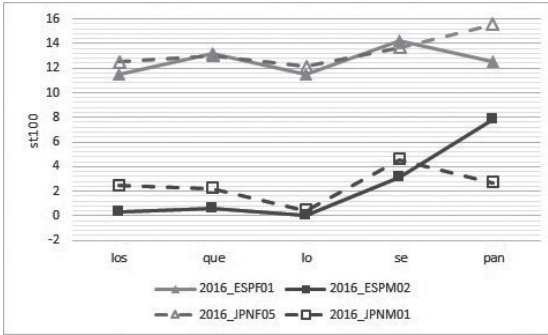


図 3 (b) 文番号 14 (ネイティブスピーカーおよび長期滞在経験者)

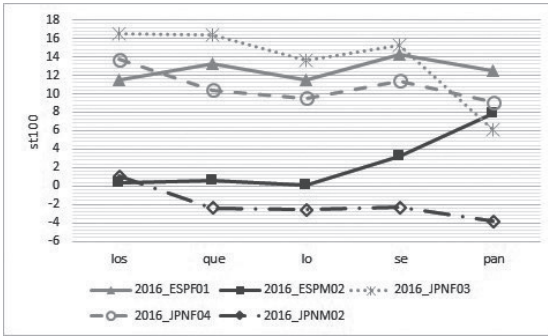


図 3 (c) 文番号 14 (ネイティブスピーカーおよび留学経験者)

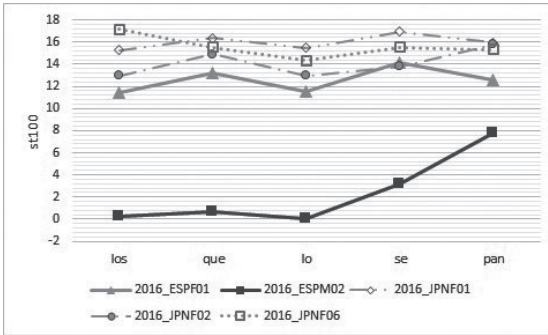


図 3 (d) 文番号 14 (ネイティブスピーカーおよび長期滞在未経験者)

3.4. Para que lo sepan,...

文番号 28 の “Para los que lo sepan,…” は、分析対象となった部分に限れば、3.3. の los が para に変更され、無強勢音節が 1 つ増えている点以外、語彙要素は共通している。3.1. と 3.2. の間で見られたほどの変化は、3.3. と 3.4. では見られないが、それでも若干異なる特徴が観察される。

図 4 (a) のネイティブスピーカーの発話におけるピッチ変動の様子を見ると、3.3. 同様、無強勢語が連続する部分の動きは平板であり、変動幅も 1 ~ 2st の範囲である。特に para の pa から lo までの間の変動幅は狭い⁽¹⁾。

図 4 (b) の長期滞在経験のある日本人学習者による発話のピッチ変動の形状とネイティブスピーカーのそれは、3.3. の場合と同様、非常によく似ている。すなわち、平板な動きと狭い変動幅という共通する特徴を示す。

図 4 (c) では、2016_JPNF03 の発話において para の ra から que へ 4st 上昇している点が特徴的である。2016_JPNM02 も同じ場所で 2st ほど上昇しており、このような上昇は男性ネイティブスピーカーの 2016_ESPM02 には見られない⁽²⁾。一方、2016_JPNF04 においては、動きも平板で、ピッチ変動幅も狭い。

図 4 (d) においては、2016_JPNF01、2016_JPNF06 の場合、動きは比較的平板であり、ピッチ変動幅もあまり広くない。2016_JPNF02 のみ、pa から ra にかけて下降し、que で再び上昇するという動きが見られ、変動幅もネイティブスピーカーと比較するとやや広い。

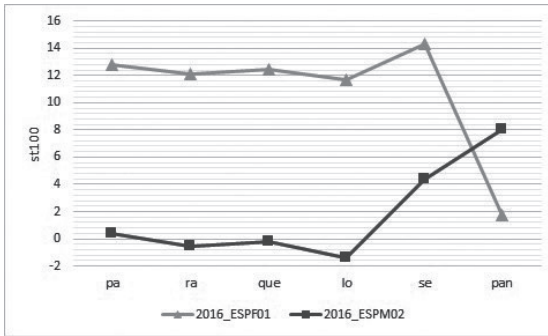


図 4 (a) 文番号 25 (ネイティブスピーカー)

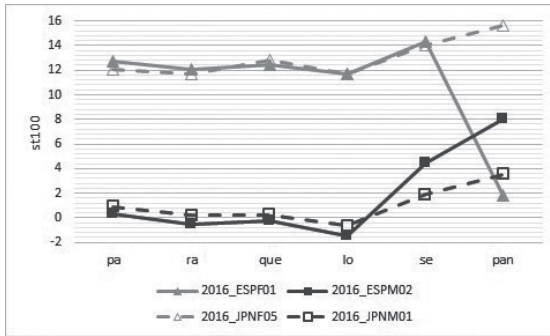


図 4 (b) 文番号 25 (ネイティブスピーカーおよび長期滞在経験者)

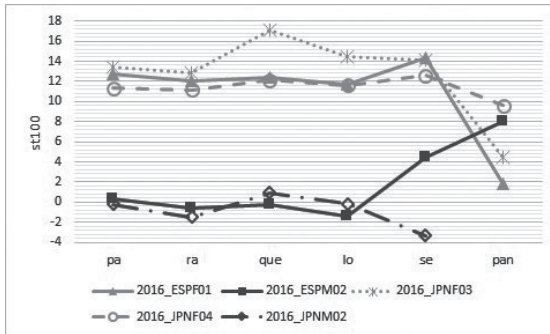


図 4 (c) 文番号 25 (ネイティブスピーカーおよび留学経験者)

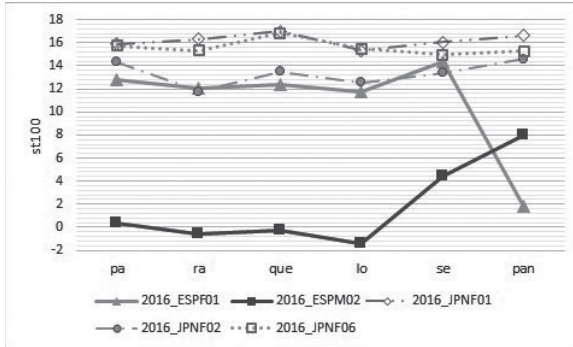


図 4 (d) 文番号 25 (ネイティブスピーカーおよび長期滞在未経験者)

3.5. A su vecino le gusta el libro.

文番号 16 の “A su vecino le gusta el libro.” では、文頭の 2 語が無強勢語、3 語目の *ve* が無強勢音節であり、この部分を主に観察する。

図 5 (a) で、ネイティブスピーカーのインフォーマントによる発話におけるピッチの動きを見ることができるが、2016_ESPF01 は 3 つの無強勢音節が続く間、比較的平板に推移し、その後、強勢音節 *ci* からそれに続く *no* にかけて上昇が見られる。一方、2016_ESPM01 では、強勢前の音節 *ve* が下がる。そこから強勢音節 *ci* に向けて 5st ほど上昇した後、それに続く音節 *no* へさらに上昇が続くという 2016_ESPF01 と同様の現象が観察される。

図 5 (b) では、長期滞在経験のある日本人学習者のうち 2016_JPNF05 と、女性ネイティブスピーカー 2016_ESPF01 の発話における無強勢語の連続部分の動きが非常によく似ている様子が見える。両者のピッチ変動幅が 1st 以内である点も類似している。一方、2015_JPNM01 の場合、男性ネイティブスピーカー 2016_ESPM01 と比較すると、最初の無強勢語である前置詞 *a* が高い点がやや異なる。

図 5 (c) で、留学経験のある学習者の発話について見てみると、2016_JPNF03 の場合、*a* から *ve* にかけて 2st ほど下降しており、その後強勢音節

ci とそれに続く no を経て約 3st 上昇している。これに対し、2016_JPNF04 は逆に a は低くはじまり、次の無強勢語 su にかけて 4st 上昇する。次の音節 ve にかけて今度は 2st ほど下降し、強勢音節 ci にかけて再度約 2st 上昇する。つまり、低→高→低→高という動きを示していることになるが、この動きは男性ネイティブスピーカー 2016_ESPM01 の発話におけるピッチの動きとやや似ている。ただし、ve から ci にかけての上昇幅は 2016_ESPM01 の方が大きい。

図 5 (d) では、日本人スペイン語学習者インフォーマントはいずれも su で一旦上昇し、ve へ向けて下降するという、2016_ESPM01 と似たピッチの動きを見せている。他のインフォーマントや 2016_ESPM01 と比較すると 2016_JPNF01 の a から su への上昇幅が 4st とやや大きいのが、形状はよく似ている。後続する強勢音節 ci やその直後の no にかけてのピッチ変動幅は、2016_JPNF02 を除き、ネイティブスピーカーのインフォーマントと比較すると小さいのはこれまでと同様である。

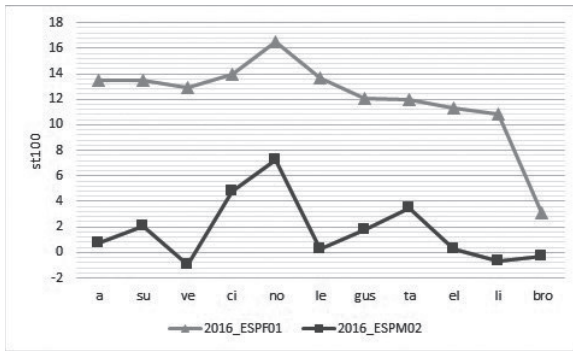


図 5 (a) 文番号 16 (ネイティブスピーカー)

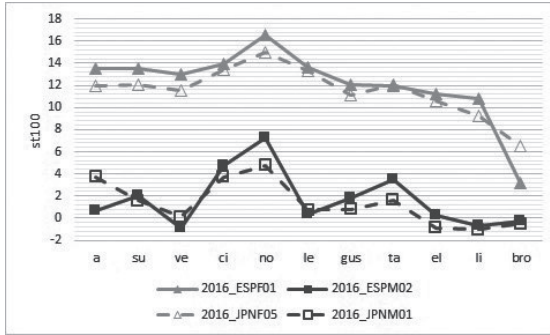


図 5 (b) 文番号 16 (ネイティブスピーカーおよび長期滞在経験者)

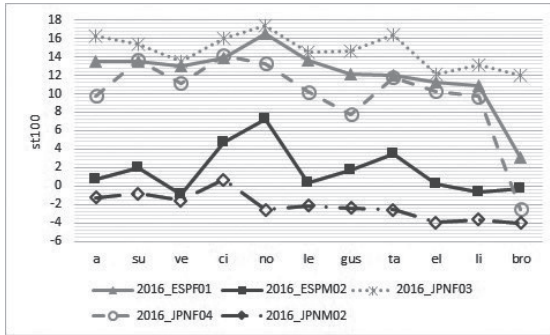


図 5 (c) 文番号 16 (ネイティブスピーカーおよび留学経験者)

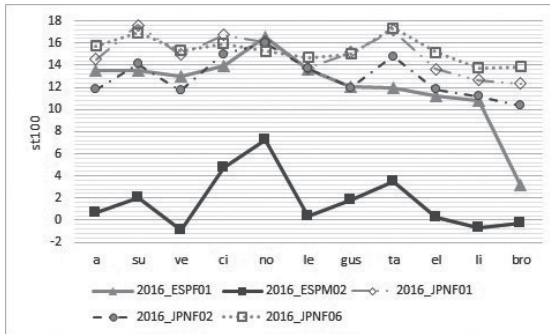


図 5 (d) 文番号 16 (ネイティブスピーカーおよび長期滞在未経験者)

3.6. A su profesor le gusta el libro.

文番号 20 の “A su profesor le gusta el libro.” では、分析対象となる最初の部分に無強勢音節が 4 つ連続する。すなわち、無強勢語の a と su、それに続く無強勢音節 pro と fe であるが、文番号 16 より、無強勢音節の数が 1 つ増える。

図 6 (a) を見ると、女性ネイティブのインフォーマント 2016_ESPF01 は最初の無強勢語 2 つとそれに続く無強勢音節 pro は平板に発音し、その後の無強勢音節 fe で下降した後、強勢音節 sor で 4st 以上上昇する。一方、男性ネイティブのインフォーマント 2016_ESPM01 の発話では、su で約 2st 上昇した後、その後に続く pro で約 3st 下降し、次の無強勢音節 fe までさらに 1st ほど下降する。その後、強勢音節 sor で 6st 上昇している。

図 6 (b) では、長期滞在経験のある日本人学習者の発話にこれまでと同様の傾向が見られる。つまり、無強勢音節が 4 つ連続している部分で、2 名のインフォーマントがともにネイティブスピーカーのインフォーマントと同じようなピッチの動きを示しているということである。異なっているのは、日本人学習者の場合、当該部分最後の無強勢音節 fe から強勢音節 sor にかけての上昇幅が小さいという点である。

図 6 (c) における日本人学習者インフォーマントは、統一的な傾向はあまり見られない。まず、2016_JPNF03 は最初の 4 つの無強勢音節は徐々に下降する動きを示し、それに続く強勢音節 sor で 2st ほど上昇する。全体的に変動幅が狭い。2016_JPN04 は、3.5. の場合と同様、a が低くはじまり、次の無強勢語 su にかけて上昇する。ただし、3.5. よりも上昇幅は小さく、2st ほどである。その後、fe にかけて緩やかに下降していくが、これらの動きが 2016_ESPM01 と類似している点も 3.5. と同様である。fe から強勢音節 sor にかけての上昇幅が 2016_ESPM01 の方が大きいという点も 3.5. と共通している。2016_JPNM02 は、2016_JPNF03 と同様、最初の a から次の su へ下降する動きを見せるが、全体に平板な動きをしており、fe がネイティブスピーカーのインフォーマント 2 名のように下がる。さらにその後の強勢音

節 sor への上昇幅も小さい。

図 6 (d) を見ると、2016_JPNF02 と 2016_JPNF06 のピッチの動き方が、比較的平板であり、変動幅が小さいという点で類似している。一方、2016_JPNF01 は su が上昇し、その後下降している形状が、2016_ESPM01 の発話に見られる形状と似ている。ただ、この 3 名の長期滞在経験のないインフォーマントは、いずれも、無強勢音節 fe から強勢音節 sor への上昇幅が 1st 程度と小さい。

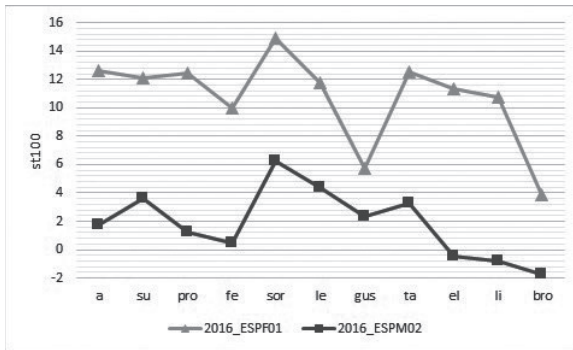


図 6 (a) 文番号 20 (ネイティブスピーカー)

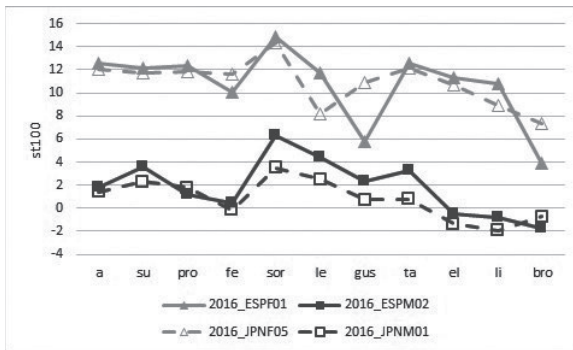


図 6 (b) 文番号 20 (ネイティブスピーカーおよび長期滞在経験者)

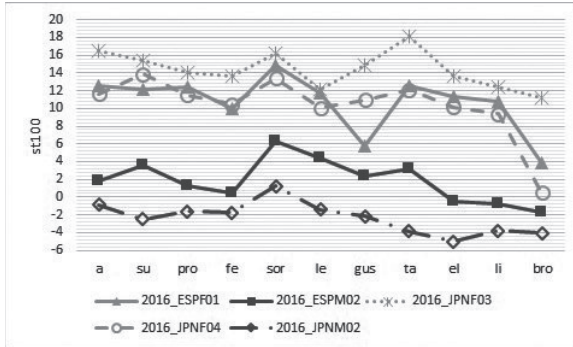


図 6 (c) 文番号 20 (ネイティブスピーカーおよび留学経験者)

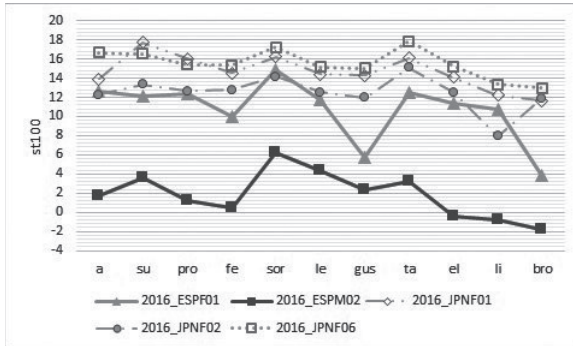


図 6 (d) 文番号 20 (ネイティブスピーカーおよび長期滞在未経験者)

4. 考察とまとめ

これまで示された結果を踏まえ、ネイティブスピーカーの音声と比較しながら、無強勢語が連続する環境における日本人スペイン語学習者の発音において特徴的と考えられる点について、以下にまとめる。

まず、今回採取したネイティブスピーカーの音声において、無強勢語・無強勢音節が連続する場合、これらは基本的に低いピッチで推移していた。泉

水 (2014) では、無強勢語にピッチピークがかかる場合がある例も指摘したが、今回の場合、そうしたケースは見られなかった。文番号 11 で文頭の *si* がそれに続く無強勢語に比較してやや高くなる場合はあったが、全体として当該の箇所は平板な動きと言ってよいだろう。

これに対し、日本人スペイン語学習者のうち、留学経験者および長期滞在未経験者のカテゴリーに入るインフォーマントの場合、無強勢語が連なる今回のような各文においては、最初の音節から徐々に下がっていく動きか、あるいは、2 つ目の音節にかけて少し上昇した後で下がっていくというパターンがよく見られた。つまり、日本人スペイン語学習者にとって、無強勢語が連続し、低い音調で平板に発音しなければならないような環境が苦手なのではないだろうかと推測される。また、*cómo* と *como* のように、同じ音連続で強勢音節のあるなしで品詞が区別されるような場合、前者に引きずられる形で後者も強勢をかけて発音してしまう場合もあるのではないだろうか。

しかしその一方で、長期滞在経験ありのカテゴリーに属するインフォーマントの場合、それ以外の 2 つのグループによる発話と比較し、ネイティブスピーカーの発話に見られるパターンにより近い動きが多く見られた。この点から、スペイン語の無強勢語が連続する環境において、低い音調で平板に発音できるかどうかというのは、学習期間やスペイン語圏での長期滞在経験、あるいは、どのくらいの年齢で長期滞在したことがあるかによって左右される可能性があるのではないかということが考えられる。今回の実験において、このカテゴリーに分類された 2 名のインフォーマントは、日本でいうところの小学校高学年の頃にスペイン語圏に長期滞在している点が共通している。対象となった人数が少ないため、現段階では確定的なことは言えないが、可能性の 1 つとして今後同じような経験を持つインフォーマントの協力を募り、同じような傾向が見られるかどうか調査・検証する必要があるだろう。また、Sensui (2012) では、平叙文・上昇調疑問文・下降調疑問文・句末のイントネーションの知覚を扱い、そこでは学習期間の長短による差異があまり見られな

かったという結果になったが、その一方で、Sensui (2015: 276) では、同様のイントネーション知覚について、スペイン語圏に長期滞在したことのある被験者がよりネイティブライクな反応を示しているのではないかという示唆も得られている。知覚と表出が対応する結果になるかどうかは分らないが、その双方について、スペイン語圏での長期滞在経験の有無と音声面の知覚・表出の間にどのような関連があり得るか実験的により深く観察することも課題であろう。

さらに、ピッチ全体の変動幅が日本人スペイン語学習者は狭いという点は既に泉水 (2014) でも指摘したが、今回の資料においても、無強勢語・無強勢音節の連続部分から強勢音節へ移行する部分で同じような傾向が見られた。ネイティブスピーカーのインフォーマントの発話に見られるように、無強勢語・無強勢音節の連続する部分の平板な動きから強勢音節へ、そしてさらにその後の音節へと急激に上昇する動きが、強勢の知覚に影響を与える可能性も考えられるので、このような部分でよりはっきりと上昇させるよう指導する必要があるのではないかと考えられる。

いずれにしても、今回の研究においては、インフォーマントの数や分析した文の数が限られており、ここで得られた結果を一般化することはできない。今後、上記の考察で指摘したことも含め、より多くのデータを集め、分析を深めていく必要があると考える。

注

*本研究は2016年度南山大学パッチ研究奨励金 I-A-2 (一般) の助成を受けて行われたものである。/ Este estudio se ha llevado a cabo gracias al fondo para investigaciones académicas Pache I-A-2 para el año académico 2016 de la Universidad Nanzan. / Funding for this study was provided by Nanzan University Pache Research Subsidy I-A-2 for the 2016 academic year.

- (1) 2016_ESPF01 の発話において、図 4 (a) ~ (d) では pan が大きく下がっているように見えるが、録音を聞くと、ソフトウェアによる分析の際、ノイズを拾っているためではないかと考えられる。
- (2) 2016_JPNM02 の発話において、図 4 (c) で pan が示されていないが、これは当該部分の周波数が検知されなかったためである。おそらく無声化によるものではないかと考えられる。

参考文献

- Boersma, P. & Weenink, D. (2017). *Praat: doing phonetics by computer* [computer program] (Version 6.0.25) <http://www.praat.org/> (最終アクセス日 2017 年 2 月 23 日)
- Hara, M. (1990). “Método de enseñanza de la pronunciación española a los alumnos japoneses”, *Actas del segundo congreso nacional de ASELE*, pp. 371-379.
- Hualde, J. I. (2012). “Stress and Rhythm”, in Hualde, J. I., Olarrea, A., O’Rourke, E. (ed.), *The Handbook of Hispanic Linguistics*, Blackwell.
- 中島さやか, 落合佐枝, 菅原昭江, 大森洋子 (2011) 「日本の大学における初級スペイン語教育のための教科書評価の枠組み (試案) と『Entre amigos』のケース: コミュニケーション能力獲得を目指した授業で『カルチュラル』(明治学院大学教養教育センター紀要), 5(1), pp. 183-200.
- Sensui, H. (2012). “Estudio experimental sobre la percepción de la entonación del español por los estudiantes universitarios japoneses”, 『アカデミア 文学・語学編』, 92, pp. 149-174.
- 泉水浩隆 (2014) 「日本人スペイン語学習者の発話における韻律的特徴に関するケーススタディ」『アカデミア 文学・語学編』, 96, pp. 21-55.
- Sensui, H. (2015). “Un estudio fonético experimental sobre la percepción de la entonación de oraciones declarativas e interrogativas del español por hablantes nativos y estudiantes japoneses”, Tesis doctoral presentada a la Universidad Sofia (Tokio).
- 寸田知恵 (2013) 「グループ活動を取り入れた初級スペイン語教育の試み」『外国語教育フォーラム』(関西大学外国語学部), 12, pp. 147-156.
- 浦真佐子 (2010) 「学習意欲を高めるスペイン語授業の一考察」『文教大学国際学部紀要』, 20(2), pp. 17-35.

付録

(単位はいずれもst100)

【文番号 11】

	性別	カテゴリ	st	nos	lo	di	cc	en	sc	rio
2016- ESPf01	女	ネイティブ	14.42765	13.01222	13.51924	15.0802	17.4794	15.21674	14.67544	11.88939
2016- ESPM02	男	ネイティブ	3.507634	0.743882	0.382338	4.974669	4.93246	- 0.59311	4.12427	7.766158
2016- JPNf01	女	長期滞在未 経験	18.31006	15.63417	14.17141	14.89568	16.31698	13.63988	14.29709	14.34003
2016- JPNf02	女	長期滞在未 経験	15.68756	13.59745	12.49843	12.04439	13.49367	12.27281	12.68092	14.86904
2016- JPNf03	女	留学経験	16.94102	14.96347	14.06611	13.8881	15.6889	13.21009	13.78407	11.80154
2016- JPNf04	女	留学経験	13.80115	12.53046	10.46342	11.13232	11.06256	8.682066	10.08372	9.099463
2016- JPNf05	女	長期滞在経 験	12.74414	12.43205	12.25344	12.00476	15.58487	14.32758	13.03253	14.18597
2016- JPNf06	女	長期滞在未 経験	17.79569	16.71649	15.09479	14.66028	14.26156	11.25508	14.48462	14.48721
2016- JPNM01	男	長期滞在経 験	3.498412	2.070001	1.212766	1.640241	2.265395	0.210725	2.379789	3.805658
2016- JPNM02	男	留学経験	2.080946	- 1.299999	- 1.49676	- 1.36274	- 1.84585	- 3.2297	- 2.15983	- 3.73391

【文番号 6】

	性別	カテゴリ	co	mo	nos	lo	di	cc	en	sc	rio
2016- ESPf01	女	ネイティブ	12.95591	12.21128	11.48504	12.17987	13.29691	16.37132	14.34412	13.77305	15.04809
2016- ESPM02	男	ネイティブ	1.456564	0.729088	0.329055	0.520763	3.831142	8.188211	4.8869	4.878498	5.327997
2016- JPNf01	女	長期滞在未 経験	7.322613	11.15953	14.98177	13.77745	15.14068	16.62021	13.80871	14.37219	13.64716
2016- JPNf02	女	長期滞在未 経験	16.74986	14.76214	13.90508	13.20434	12.12774	14.33861	12.83091	12.82398	13.18019

2016_	留学経験	15.38288	17.31897	15.65084	14.01215	14.81406	15.9159	12.51475	13.89841	11.50412
JPNF03	女									
2016_	留学経験	10.38268	12.35577	10.35194	10.1815	11.34242	10.29393	9.448561	10.67708	10.01132
JPNF04	女									
2016_	長期滞在経験	15.09371	16.14763	15.61981	12.59864	11.50235	13.90057	11.58163	10.91096	8.333658
JPNF05	女									
2016_	長期滞在経験	17.58158	15.22781	14.85278	14.53702	14.17052	13.73834	13.97245	14.94395	13.96762
JPNF06	女									
2016_	長期滞在経験	3.424284	3.550833	0.918924	-0.22185	0.579084	1.46355	0.014021	0.504993	-1.29939
JPNM01	男									
2016_	留学経験	1.888186	0.674763	-2.09483	-2.49054	-0.75684	-2.90897	-2.8979	-1.96374	-3.49075
JPNM02	男									

【文番号 14】

	性別	カテゴリ	las	que	lo	sc	pan
2016_	女	ネイティブ	11.47242	13.24118	11.48938	14.2031	12.55442
ESP01							
2016_	男	ネイティブ	0.303539	0.623075	0.04299	3.166612	7.828876
ESP02							
2016_	女	長期滞在経験	15.27204	16.36743	15.50682	16.96812	15.96137
JPNF01							
2016_	女	長期滞在経験	12.98651	14.91338	12.97234	13.82835	15.78227
JPNF02							
2016_	女	留学経験	16.55586	16.3959	13.63628	15.29769	6.081334
JPNF03							
2016_	女	留学経験	13.74782	10.4216	9.501188	11.43715	9.089439
JPNF04							
2016_	女	長期滞在経験	12.50007	13.02514	12.12266	13.67463	15.50578
JPNF05							
2016_	女	長期滞在経験	17.15504	15.5513	14.32313	15.53777	15.3411
JPNF06							
2016_	男	長期滞在経験	2.435854	2.238263	0.448194	4.580157	2.699156
JPNM01							
2016_	男	留学経験	1.045199	-2.37757	-2.58031	-2.31589	-3.8034
JPNM02							

【文番号 25】

	性別	カテゴリ	<i>pa</i>	<i>ra</i>	<i>que</i>	<i>lo</i>	<i>sc</i>	<i>pan</i>
2016-ESPf01	女	ネイティブ	12.76926	12.09607	12.41532	11.70039	14.35616	1.780931
2016-ESPM02	男	ネイティブ	0.341854	-0.54475	-0.23609	-1.43013	4.412202	8.00629
2016-JPNF01	女	長期滞在経験	15.91344	16.32737	16.98954	15.31571	16.08377	16.65702
2016-JPNF02	女	長期滞在経験	14.34076	11.7593	13.47229	12.55263	13.40058	14.61307
2016-JPNF03	女	留学経験	13.40898	12.81449	17.09854	14.45949	14.10388	4.449502
2016-JPNF04	女	留学経験	11.32925	11.13052	12.14232	11.62511	12.56784	9.591582
2016-JPNF05	女	長期滞在経験	12.0652	11.6836	12.77158	11.66795	14.00163	15.60066
2016-JPNF06	女	長期滞在経験	15.74734	15.30549	16.85098	15.46354	14.98291	15.29183
2016-JPNM01	男	長期滞在経験	0.912738	0.190234	0.245655	-0.67681	1.90321	3.554672
2016-JPNM02	男	留学経験	-0.21338	-1.49083	0.909707	-0.18858	-3.31973	-

【文番号 16】

	性別	カテゴリ	<i>a</i>	<i>su</i>	<i>te</i>	<i>ci</i>	<i>no</i>	<i>le</i>	<i>gus</i>	<i>ta</i>	<i>cl</i>	<i>li</i>	<i>bro</i>
2016-ESPf01	女	ネイティブ	13.52955	13.48862	12.95252	13.94314	16.53843	13.67133	12.0885	11.96613	11.27525	10.81892	3.147934
2016-ESPM02	男	ネイティブ	0.720763	2.020644	-0.94425	4.785511	7.29936	0.313958	1.776512	3.46651	0.240638	-0.67287	-0.29706
2016-JPNF01	女	長期滞在経験	14.54185	17.63902	14.97506	16.71498	16.09495	13.76345	15.1521	17.13878	13.6531	12.64532	12.36373
2016-JPNF02	女	長期滞在経験	11.83326	14.12148	11.7358	14.99542	15.99261	13.72455	11.97877	14.80598	11.80781	11.20569	10.35909
2016-JPNF03	女	留学経験	16.20732	15.37092	13.54286	16.05214	17.40189	14.54404	14.69165	16.41055	12.127	13.18447	11.94701
2016-JPNF04	女	留学経験	9.796183	13.63574	11.16988	14.18638	13.28603	10.24232	7.743797	11.78137	10.28266	9.68671	-2.50903
2016-JPNF05	女	長期滞在経験	11.99754	12.05991	11.48706	13.38989	14.98156	13.33382	11.13732	12.02331	10.56842	9.21998	6.520314

2016_	長期滞在未	15.73106	16.9661	15.31584	15.96939	15.28593	14.72388	14.9954	17.36744	15.16813	13.75366	13.86623
JPNF06	経験											
2016_	長期滞在経	3.744988	1.611473	0.136064	3.737931	4.773234	0.741299	0.826437	1.640047	-0.84639	-1.01631	-0.51577
JPNM01	験											
2016_	留学経験	-1.23989	-0.81443	-1.56957	0.698863	-2.54662	-2.12332	-2.37839	-2.57863	-3.96351	-3.6487	-4.03338
JPNM02												

【文番号20】

	性別	カテゴリー	a	su	pro	fe	sor	le	gus	ta	el	li	bro
2016_	女	ネイティブ	12.59622	12.12295	12.40763	10.01491	14.89227	11.73507	5.768759	12.53309	11.32738	10.78274	3.86663
ESP01													
2016_	男	ネイティブ	1.774798	3.611112	1.229177	0.482274	6.251848	4.387878	2.316514	3.235629	-0.48007	-0.81033	-1.77919
ESPM02													
2016_	女	長期滞在未	13.93299	17.70858	16.01059	14.5452	16.24237	14.43445	14.28009	16.09582	14.07994	12.19713	11.62765
JPNF01		経験											
2016_	女	長期滞在未	12.27468	13.35401	12.66216	12.80714	14.16969	12.49933	11.97466	15.07178	12.55184	7.977188	11.92745
JPNF02		経験											
2016_	女	留学経験	16.4876	15.34295	14.07726	13.70371	16.20293	12.09165	14.87257	18.15967	13.66338	12.36459	11.20111
JPNF03													
2016_	女	留学経験	11.63479	13.89146	11.51709	10.47479	13.42016	10.06557	10.93815	12.08667	10.14672	9.424346	0.46274
JPNF04													
2016_	女	長期滞在経	12.00481	11.73451	11.81817	11.64326	14.35936	8.188281	10.86784	12.13102	10.69348	8.918405	7.29945
JPNF05		験											
2016_	女	長期滞在未	16.64078	16.56941	15.43606	15.33328	17.20319	15.18838	15.0117	17.8763	15.2208	13.34092	12.94145
JPNF06		経験											
2016_	男	長期滞在経	1.429864	2.308125	1.761532	-0.14745	3.497285	2.524118	0.744714	0.804063	-1.3505	-1.93102	-0.71676
JPNM01		験											
2016_	男	留学経験	-0.83319	-2.4629	-1.63013	-1.72902	1.259469	-1.41835	-2.17698	-3.82	-4.97821	-3.76408	-4.04575
JPNM02													